

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	自己評価や外部評価の際には主に代表者や管理者が対応しているが、一般職員の意見を反映する機会がより多く望まれる。	一般の職員についても評価事業に参加できるよう配慮する。	月例会議や日々のミーティングの場でも施設運営について出来る限り深く意見交換するように取り組んでいく。スタッフ個々人の介護や看護に対する価値観を業務内容に反映できるような組織作りに取り組む。	3ヶ月
2	8	運営推進会議の開催が少ない。	適宜運営推進会議を開催する。	運営推進会議には民生委員や地域関係者、医療機関、地域包括等へ参加を働きかける。認知症キャラバンや各種講演会等に参加する。利用者個人や家族についてもプライバシーに十分配慮しながら参加を呼びかける。	3ヶ月
3	10	広汎な福祉制度の理解と活用が求められている。	福祉制度について積極的に研修の機会を設け、職員の資質向上を図る。	今年度より月例会議で内部研修に取り組んでいる。4月は成年後見制度、5月は認知症ケア、6月は地域福祉権利擁護事業の各テーマで研修に取り組んだ。入居来談者には地域にある福祉サービスとして情報提供している。	直ちに
4	20	人権教育や啓発活動に組織として取り組む必要がある。	人権感覚の育成に取り組む。	他者の人権に鋭敏になるには、先ず自己の人権感覚を磨かなければならない。広く社会に存在する差別や格差について学習する機会を提供するよう努める。また事業者協議会や行政主催の各種研修会に参加する。	直ちに
5	73	防災訓練の質の向上が求められている。	現在実施している避難訓練、消火訓練をより実態に即した内容のあるものにしていく。	地域の民生委員や消防団員にも防災訓練への参加を呼びかける。また実際に夜間を想定した模擬訓練実施する。訓練の場面では入居者個々の特性に応じた避難誘導等の方法を確定する。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。